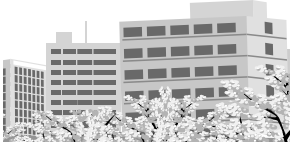
会員の広場



ショータイム―大谷翔平観戦記―

濵田　義文（東京）

白球が宙に大きく舞う。地鳴りのような歓声が球場全体に湧き上がり、大谷翔平が三塁を回り、ホームへと駆け込んでいく。祝福の花火が打ち上がる。試合は大谷のマウンドで始まり、三者凡退に抑えて、ベンチに戻るやいなや二番として打席に立ち、瞬く間に外野スタンドに白球を叩き込んだ。そして、再び七回にもこの試合二本目となる本塁打を豪快に放った。対戦相手はシカゴ・ホワイト・ソックス。エンゼルスが4対2で勝利した。

六月二七日、アナハイムでの試合は、「日本ヘリテージの夜」と銘打たれ、球場は日本の文化や伝統に包まれていた。和太鼓の音が響き、日本人が招かれた始球式など、日本色豊かなイベントで彩られ、感動と誇りに満ちた一夜となった。

翌日、テレビでは、大谷の二刀流のプレイが常にもまして注目を浴び、特集された。投手として先発し、七回まで１０２球を投げ、十奪三振、一失点と圧巻の投球をみせて、七勝目の勝利投手となった。打者としては初回に27号、降板直後の七回にもＤＨで28号の本塁打を放ち、三打数三安打、一つの四球と四打席すべてで出塁し、圧倒的な存在感を示した。解説者たちはこの驚異的な記録に舌を巻き、地元のテレビ局は「ユニコーン」と称賛した。大谷の卓越した才能が投打にわたり発揮された「ショータイム」だった。野球史に残る偉業を刻んだ瞬間だった。この劇的な試合を目にすることができたのは、幸運なことだった。

テレビ観戦の魅力は、解説やリプレイによって、試合の進行を理解しやすくする点にある。一方、球場では観客は一体となって興奮を共有する。選手たちがグランドで繰り広げる妙技に拍手喝采する。スポーツの神髄を味わえる至高の瞬間であり、エンターテインメントそのものだ。球団は観客を魅了し、盛り上げるために様々な工夫を凝らす。記念のグッズを配布し、ホームチームへの応援を音響で演出する。ファンはヒーロー選手たちのユニフォームを身に纏い、グッズを買い求め、熱狂する。スポーツビジネスの成算を肌で感じた。

数多くの日本人アスリートが世界中の様々なフィールドで活躍している。その中で大谷のパフォーマンスは、際立っている。彼は、ＭＬＢのルールさえも変え、偉大な投手にして本塁打王に輝いた最優秀なプレーヤーである。大谷翔平の「ショータイム」は、感動と夢をもたらし、彼の偉業は、物語として、心にそして歴史に深く刻まれていくことだろう。